

セキュリティ事業と CSR の推進 —世界各国で社会の「安全・安心」化に貢献



(写真 1) ロンドンオリンピック会場「ExCel (エクセル)」
のセキュリティを担当

セコム(株) コーポレート広報部
理事・部長 安田 稔

「セコムは社業を通じ、社会に貢献する」。これは、「セコムの事業と運営の憲法」の中の「運営基本 10 カ条」の第 1 条の文言である。第 2 条はそれを敷衍して、「セコムは社会に貢献する事業を発掘、実現し続ける責任と使命を有する」となっている。

この第 1 条と第 2 条でも明らかなように、当社は、セキュリティ事業が公共事業に近い性格を持つため、50 年前の創業時から常に「社会への貢献」を念頭に置いて会社を運営してきた。当社とグループ企業はいま、その社会貢献を地球規模で実践している。

20 の国と地域で「安全・安心」展開

当社とグループ企業は、①セキュリティ事業(オンライン・セキュリティシステムを中心に、ホームセキュリティ、安全商品、常駐警備サービス、現金護送サービス)、②防災事業(防災設備の製造・設計・施工・販売・メンテナンス)、③地理情報サービス事業(航空写真を含む空間情報の収集・処理、地図作成)、④メディカル事業(訪問看護・介護サービス、シニアレジデンスや病院運営支援、健康食品の販売)などを 20 の国と地域で展開している。

セキュリティ以外の事業も広義の「安全・安心」事業であり、私たちはそれぞれの事業を通じて各国の社会の「安全・安心」化に貢献していると確信している。

以下で、英国でのセキュリティ事業を例に、海外での CSR 推進の一端をご紹介します。

英国のプロが認めた「安全・安心」

—日本式で英国社会を安全化

英国は監視カメラの設置台数が世界一の国である。先進国の中で最も犯罪発生率(人口 10 万人当たりの犯罪発生件数)が高く、爆弾テロなどを経験しているので、高いセキュリティ対策が取られている。100 年以上の歴史を持つ警報機器の普及率も極めて高い。

ところが、英国のセキュリティ会社は機器を販売するだけなので、設置も、また発報したときの警察への通報も、購入者が行わなければならない。それが、当社が英国でセキュリティ会社 2 社を買収し、両社を合併してセコム PLC を設立した 1996 年当時の状況だった。

そこで、当社は日本国内と同じ方式のセキュリティシステム、つまり機器の設置から、24 時間監視、緊急対処、メンテナンスまでを提供することにした。しかし当初は、「不安全的な状態を安全な状態にしてはじめて『安全・安心』を提供したことになる」というコンセプトは理解されず、普及は遅々として進まなかった。

セコム PLC の安全思想とシステムの優秀性を最初に評価したのは英国の警察と警備業協会だった。その現れが、ロンドン警視庁からの 2 度の表彰と、英国警備業界の“オスカー賞”と呼ばれる「セキュリティ・エクセレンス・アワード」での「最優秀顧客サービス賞」の受賞である。

これを契機に普及が加速し、英国の空の玄関口

であるヒースロー国際空港のターミナル内にある警察施設や、国際高速列車ユーロスターの駅にある警察施設への導入を経て、現在では英国の4大メガバンクの2社、RBS銀行とHSBC銀行の支店などに各種セキュリティシステムを提供している。

英国に進出して20年に満たないが、ロンドンなどの大都市だけでなく、地方都市、そして田舎でも「SECOM」マークを目にするようになった。セコムPLCは、今では英国全土をカバーする同国で3番目の規模のセキュリティ会社に成長している。

また、昨年開催されたロンドンオリンピックで、柔道やボクシングの会場となった「ExCel（エクセル）」のセキュリティもセコムPLCは一手に担った（写真1）。このとき、日本の新聞記者がロンドン警視庁に「国家的なテロ対策に関わる仕事を外国企業（セコム）に任せることに抵抗はないのか」と聞くと、「この国に根差している企業であれば親会社がどこの国であっても、良いものは使う。セコムのサービスの質は高い」と答えたという。セコムPLCはこのサービスクオリティの高さで、英国社会の安全に貢献している。

日本人学校での「子ども安全教室」

セコムPLCはまた、契約先であるロンドンの日本人学校で「非常時対策訓練」と「子ども安全教室」を実施している。

この安全教室は、子どもの防犯啓発を目的として、当社が日本国内で実施している社会貢献活動の1つで、保育園から高校までの学校やイベント会場などで、子どもと保護者、学校関係者を対象



（写真2）地元警察の協力も得て本格的な非常時対策訓練を実施
（写真中央は不審者役のセコムPLC社員）

に、子どもが犯罪に巻き込まれないためのポイントを説明する授業を行っている。それを2007年からは英国でも始めたのである。

「非常時対策訓練」では、授業中の教室に不審者に扮したセコムPLC社員が侵入。即座に担当教員が非常通報ボタンを押下。信号を受信した職員室では責任者が緊急校内放送を開始。放送を聞いた教員は、生徒の安全確保、不審者への対応を行い、セコムPLCからの要請で駆けつけた警察官が不審者を逮捕、という流れになる。全校生徒約400名と全教員が参加して行う、本番さながらの訓練である（写真2）。

この後、セコムPLCの社長が講師となって「子ども安全教室」を実施（写真3）。不審者に連れ去られそうになったときに、「HELP！」と大声で助けを求める練習や、不審者に近づき過ぎない距離の取り方などを、不審者役の社員が子どもに声をかけるといったシミュレーションを交えながら教える。



（写真3）「セコム子ども安全教室」を実施する英国セコムPLCの竹澤稔社長

英国の犯罪発生率は日本の6倍以上である。子どもが危険に遭遇する確率は日本より格段に高いので、子ども自身が防犯意識を持ち、いざというときの対処法を身につけておく必要がある。校長からは「児童生徒の安全意識の向上にたいへん役立っている」と高い評価をいただいている。

セコムPLCでは、今後もこうした社業を通じた社会貢献活動を続けていきたいと考えている。 ■

◆セコム株のCSRへの取り組み

[http://www.secom.co.jp/corporate/
environment/contribute.html](http://www.secom.co.jp/corporate/environment/contribute.html)